



## 平成28年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年5月13日

上場会社名 株式会社 梅の花 上場取引所 東  
 コード番号 7604 URL http://www.umenohana.co.jp/  
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 梅野 重俊  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役管理本部長兼 経理部長 (氏名) 上村 正幸 TEL 0942-38-3440  
 四半期報告書提出予定日 平成28年5月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無: 無  
 四半期決算説明会開催の有無: 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成28年9月期第2四半期の連結業績(平成27年10月1日~平成28年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年9月期第2四半期	15,582	1.6	304	△23.7	304	△14.0	176	△16.9
27年9月期第2四半期	15,332	△1.5	399	△23.3	354	△28.4	212	△28.4

(注) 包括利益 28年9月期第2四半期 158百万円(△29.2%) 27年9月期第2四半期 223百万円(△23.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年9月期第2四半期	23.91	—
27年9月期第2四半期	28.78	24.27

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
28年9月期第2四半期	21,381	7,052	33.0	955.88
27年9月期	21,159	6,930	32.8	939.44

(参考) 自己資本 28年9月期第2四半期 7,052百万円 27年9月期 6,930百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年9月期	—	0.00	—	5.00	5.00
28年9月期	—	0.00	—	—	—
28年9月期(予想)	—	—	—	5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

## 3. 平成28年9月期の連結業績予想(平成27年10月1日~平成28年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	30,142	2.5	420	128.4	243	104.7	81	—	11.02

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

## ※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動): 無  
 新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用: 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無  
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無  
 ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	28年9月期2Q	7,489,200株	27年9月期	7,489,200株
② 期末自己株式数	28年9月期2Q	111,643株	27年9月期	111,608株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	28年9月期2Q	7,377,578株	27年9月期2Q	7,377,604株

## ※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、平成28年5月12日付にて、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しております。

## ※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(セグメント情報等) .....	10
(重要な後発事象) .....	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、雇用・所得環境の改善が続く中で、各種政策の効果により緩やかに回復に向かうことが期待されます。しかし、中国を始めとする新興国や資源国等の景気が下振れするリスクがあり、海外経済の不確実性の高まりや金融資本市場の変動に留意する必要があると言われる中で推移いたしました。

このような状況のもと、前期を含めた新規出店等により当第2四半期連結累計期間の売上高は、155億82百万円（前年同期比101.6%）と前年同期を上回っておりますが、営業利益につきましては出店及び改装に伴う支出により3億4百万円（前年同期比76.3%）と前年同期を下回り、経常利益は3億4百万円（前年同期比86.0%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億76百万円（前年同期比83.1%）となりました。

今後の出店につきましては、ポイントカード顧客の世帯捕捉率や分布状況と商圈属性データの分析から店舗の商圈と連動した地域へ従来の梅の花店舗の出店を計画しております。また、梅の花の小型店舗の駅ビル等新たな立地への展開も模索しております。加えて新規業態の出店につきましては、5月中旬に、現代を生きる大人の女性たちのライフスタイルに寄り添うカフェスタイルのレストラン「TSUMUGI by 梅の花」を枚方T-SITE（大阪府枚方市）に出店すべく準備に取り組んでおります。また、自然災害等に対するリスクの分散及び中長期的な出店並びに物流の効率化等を見据え、京都府綴喜郡井手町に新工場（セントラルキッチン）建設の準備を進めております。

店舗の出店及び退店につきましては、外食事業1店舗出店、3店舗退店、テイクアウト事業5店舗出店、4店舗退店により、当第2四半期連結累計期間末の店舗数は、267店舗となりました。

なお、セグメントの状況は次のとおりであります。

## (外食事業)

外食事業におきましては、客数増加を第一義ととらえております。

施策といたしましては、メニューを一新し価格の見直しと税込価格への変更をするとともに、梅の花業態30周年記念企画として創業から一番人気の懐石の「梅の花」を全地区で創業当時の価格で提供いたしました。また、飲み放題付きの歓送迎会プランを幹事様にご利用しやすい価格で提供する等、お客様の来店頻度の向上に努めました。結果、既存店来客数は前年同期を上回りました。さらに、膝や腰への負担を和らげ幅広い年齢層にご利用頂けるように、お座敷の席からテーブル席への改装を進めております。

持ち帰り商品につきましては、恵方巻きやひな祭りちらし寿司等の季節イベント商品の販売を積極的に行うとともに、ご家庭では手間がかかり敬遠されがちなコロケ等の揚げ物を販売することで、売上の底上げに注力いたしました。

以上の結果、売上高は92億49百万円（前年同期比100.01%）と前年同期を上回りましたが、セグメント利益につきましてはテレビCMと出店及び改装経費等の支出により4億76百万円（前年同期比89.9%）と前年同期を下回りました。

なお、販促費や装飾費等の経費の見直しを行うとともに店舗改装や求人等必要な箇所に費用を集中し費用対効果の向上を図ることにより、利益率の改善に向けて取り組んでおります。

出店及び退店につきましては、梅の花は1店舗出店し72店舗、チャイナ梅の花3店舗、かにしげ3店舗、その他店舗は3店舗退店し6店舗となりました。従いまして、外食事業の全店舗数は84店舗となりました。

(テイクアウト事業)

古市庵テイクアウト店におきましては、「我々は、綺麗で美味しく価値ある商品を笑顔と愛情で感じ良く販売し、安心・安全な品質の向上を目指します。」を経営方針として価値ある商品を提供できるように心がけております。

売上増加策といたしましては、毎月定期的に行っている手巻き寿司の日やおむすびの日等の期間限定イベントや、ひな祭り祝いちらし等季節に合わせた企画を行うとともに、他業種とのコラボ商品の開発を行う等新たなメニュー開発にも取り組んでおります。また、工場見学ツアーや公開試食会を行う等認知度アップへの取り組みも行っております。

梅の花テイクアウト店におきましては、「梅の花の5原則を習得し日本一感じの良いサービスを提供する。」を経営方針として販売コンテストや社内研修等を通して「感じの良いサービス」に対する従業員の意識向上を図るとともに、「湯葉と豆腐の店 梅の花」の料理・季節感・ヘルシーの3本の柱をコンセプトにした商品開発も行っております。

売上増加策といたしましては、定番商品に加え、3本の柱により開発された「ふくふく豆腐 季節の餡かけ」や「豆腐入り鶏つくねの豆乳鍋」等の商品を新たに販売することでお客様満足度アップを図っております。

また、両テイクアウト店ともに外部講師による販売員向けセミナーを行う等、接客の質の向上にも取り組んでおります。

これらの取り組みの結果、テイクアウト事業の売上高は63億32百万円(前年同期比104.1%)と前年同期を上回りましたが、出店及び改装経費等の支出及び配送費の増加等によりセグメント利益は2億74百万円(前年同期比86.8%)と前年同期を下回りました。

店舗数につきましては、古市庵テイクアウト店は2店舗出店2店舗退店し133店舗、梅の花テイクアウト店は2店舗出店1店舗退店し43店舗、その他店舗は1店舗出店1店舗退店し7店舗、テイクアウト事業の全店舗数は183店舗となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産につきましては、前連結会計年度末と比べ2億21百万円増加し、213億81百万円となりました。これは主に、工場用地の取得及び新規出店により有形固定資産が2億27百万円増加したことによるものであります。

負債の部につきましては、前連結会計年度末と比べ1億円増加し、143億29百万円となりました。これは主に、社債の償還により転換社債型新株予約権付社債が22億59百万円減少し、借入金の総額が21億40百万円、買掛金が63百万円、未払法人税等が63百万円増加したことによるものであります。

純資産の部につきましては、前連結会計年度末と比べ1億21百万円増加し、70億52百万円となりました。これは主に、利益剰余金が1億39百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成27年11月13日の決算短信で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成27年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,042,100	1,965,383
売掛金	1,389,584	1,520,768
商品及び製品	100,993	90,440
原材料及び貯蔵品	191,528	231,783
繰延税金資産	179,427	181,705
その他	563,296	496,620
貸倒引当金	△1,658	△1,458
流動資産合計	4,465,272	4,485,244
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,875,231	8,057,373
機械装置及び運搬具(純額)	270,554	292,463
土地	4,930,170	5,288,949
建設仮勘定	402,277	19,838
その他(純額)	608,763	656,258
有形固定資産合計	14,086,998	14,314,883
無形固定資産		
のれん	225,669	169,252
その他	82,092	149,485
無形固定資産合計	307,761	318,737
投資その他の資産		
投資有価証券	105,557	90,130
長期貸付金	201,893	201,893
退職給付に係る資産	192,404	208,973
繰延税金資産	107,955	99,919
敷金及び保証金	1,672,142	1,672,562
その他	146,280	115,701
貸倒引当金	△126,467	△126,467
投資その他の資産合計	2,299,767	2,262,713
固定資産合計	16,694,527	16,896,334
資産合計	21,159,800	21,381,578

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成27年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	619,322	682,930
短期借入金	2,700,000	5,400,000
1年内返済予定の長期借入金	1,610,934	1,486,750
1年内償還予定の転換社債型新株予約権付社債	2,259,675	—
未払金	1,248,254	1,236,369
未払法人税等	48,600	111,774
賞与引当金	230,600	265,400
ポイント引当金	186,740	188,016
その他	631,962	692,913
流動負債合計	9,536,090	10,064,153
固定負債		
長期借入金	3,981,184	3,545,626
資産除去債務	662,789	673,668
その他	48,898	46,052
固定負債合計	4,692,871	4,265,347
負債合計	14,228,961	14,329,501
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,123,177	4,123,177
資本剰余金	3,459,117	3,459,117
利益剰余金	△477,771	△338,281
自己株式	△196,262	△196,351
株主資本合計	6,908,261	7,047,662
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	21,061	6,020
為替換算調整勘定	△4,725	△4,725
退職給付に係る調整累計額	6,241	3,120
その他の包括利益累計額合計	22,576	4,415
純資産合計	6,930,838	7,052,077
負債純資産合計	21,159,800	21,381,578

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年10月1日 至平成27年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年10月1日 至平成28年3月31日)
売上高	15,332,261	15,582,533
売上原価	4,702,182	4,768,358
売上総利益	10,630,079	10,814,174
販売費及び一般管理費	10,230,522	10,509,454
営業利益	399,557	304,720
営業外収益		
受取利息	2,436	2,249
受取配当金	458	498
受取手数料	18,168	18,890
保険返戻金	—	16,637
雑収入	16,324	26,923
営業外収益合計	37,386	65,199
営業外費用		
支払利息	27,898	30,778
貸倒引当金繰入額	21,665	—
株式関連費	28,292	27,192
雑損失	4,924	7,307
営業外費用合計	82,780	65,278
経常利益	354,163	304,642
特別損失		
固定資産除売却損	88,493	29,031
店舗閉鎖損失	35,131	—
特別損失合計	123,624	29,031
税金等調整前四半期純利益	230,539	275,610
法人税、住民税及び事業税	47,979	89,771
法人税等調整額	△29,762	9,461
法人税等合計	18,216	99,232
四半期純利益	212,322	176,378
親会社株主に帰属する四半期純利益	212,322	176,378



(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年10月1日 至平成27年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年10月1日 至平成28年3月31日)
四半期純利益	212,322	176,378
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	12,898	△15,040
退職給付に係る調整額	△1,597	△3,120
その他の包括利益合計	11,301	△18,161
四半期包括利益	223,623	158,216
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	223,623	158,216

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年10月1日 至平成27年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年10月1日 至平成28年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	230,539	275,610
減価償却費	521,411	562,791
店舗閉鎖損失	35,131	—
のれん償却額	56,417	56,417
賞与引当金の増減額(△は減少)	△6,143	34,800
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	△171,219	△16,568
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△1,477	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	21,565	△200
ポイント引当金の増減額(△は減少)	△1,201	1,276
受取利息及び受取配当金	△2,894	△2,747
支払利息	27,898	30,778
固定資産除売却損益(△は益)	88,493	29,031
保険返戻金	—	△16,637
売上債権の増減額(△は増加)	△193,616	△131,184
たな卸資産の増減額(△は増加)	△36,136	△29,702
仕入債務の増減額(△は減少)	126,126	63,607
その他	82,891	53,828
小計	777,785	911,100
利息及び配当金の受取額	737	746
利息の支払額	△28,017	△30,892
法人税等の支払額	△189,519	△34,985
法人税等の還付額	—	74,541
営業活動によるキャッシュ・フロー	560,986	920,511
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△60	—
定期預金の払戻による収入	—	519
有形固定資産の取得による支出	△1,323,619	△767,411
無形固定資産の取得による支出	△4,345	△79,413
有形固定資産の除却による支出	△44,677	△23,113
投資有価証券の取得による支出	△11,265	△1,297
資産除去債務の履行による支出	△61,349	—
貸付けによる支出	△9,192	—
貸付金の回収による収入	116	—
保険積立金の払戻による収入	—	45,254
敷金及び保証金の回収による収入	100,655	11,311
敷金及び保証金の差入による支出	△26,976	△9,729
その他	1,600	1,962
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,379,113	△821,916

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成26年10月1日 至 平成27年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年10月1日 至 平成28年3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	1,600,000	2,700,000
長期借入れによる収入	—	300,000
長期借入金の返済による支出	△826,000	△859,742
自己株式の取得による支出	△235	△89
社債の償還による支出	—	△2,259,675
リース債務の返済による支出	△28,854	△18,514
割賦債務の返済による支出	△1,181	—
配当金の支払額	△35,625	△36,770
財務活動によるキャッシュ・フロー	708,103	△174,790
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△110,023	△76,196
現金及び現金同等物の期首残高	1,877,866	1,713,769
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,767,842	1,637,573

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

- I 前第2四半期連結累計期間(自平成26年10月1日至平成27年3月31日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	外食事業	テイクアウト 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	9,249,020	6,083,241	15,332,261	—	15,332,261
セグメント間の内部売上高 又は振替高	5,253	19,515	24,768	△24,768	—
計	9,254,273	6,102,756	15,357,030	△24,768	15,332,261
セグメント利益	530,210	316,045	846,256	△446,699	399,557

- (注) 1 セグメント利益の調整額△446,699千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。  
なお、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。  
2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

- II 当第2四半期連結累計期間(自平成27年10月1日至平成28年3月31日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	外食事業	テイクアウト 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	9,249,825	6,332,708	15,582,533	—	15,582,533
セグメント間の内部売上高 又は振替高	7,280	18,524	25,805	△25,805	—
計	9,257,105	6,351,233	15,608,339	△25,805	15,582,533
セグメント利益	476,714	274,311	751,026	△446,305	304,720

- (注) 1 セグメント利益の調整額△446,305千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。  
なお、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。  
2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

自己株式の取得及び自己株式の公開買付けについて

当社は、平成28年3月4日開催の取締役会において、会社法(平成17年法律第86号。その後の改正を含みます。)第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条第1項及び当社定款の規定に基づき、自己株式の取得及びその具体的な取得方法として自己株式の公開買付けを行うことを決議し、以下のとおり実施いたしました。

1. 自己株式の取得を行った理由及び取得方法

当社の創業家の資産管理業務を行っている株式会社梅野企画より株式売却の意向がある旨の連絡を受け、当社が自己株式として取得することが資本効率の向上に寄与し、当社が経営の重要課題として認識している株主に対する利益還元に関する基本方針と合致すると判断いたしました。

自己株式の具体的な取得方法につきましては、株主間の平等性及び取引の透明性の観点から公開買付けの手法が適切であると判断いたしました。

2. 平成28年3月4日開催の取締役会における決議内容

- |             |                                      |
|-------------|--------------------------------------|
| (1) 取得株式の種類 | 普通株式                                 |
| (2) 取得株式の総数 | 570,100株(上限)<br>(発行済株式総数に対する割合7.61%) |
| (3) 取得価額の総額 | 1,359,688,500円(上限)                   |
| (4) 取得する期間  | 平成28年3月7日から平成28年5月31日まで              |

3. 自己株式公開買付けの概要

- |   |   |
|---|---|
| (1) 買付けを行った株式の種類                        | 普通株式  |
| (2) 買付けを行った株式の総数                        | 520,000株<br>(発行済株式総数に対する割合6.94%)                            |
| (3) 買付けを行った価額の総額                        | 1,240,200,000円<br>(注)上記金額には、公開買付代理人に支払う手数料その他諸経費は含まれておりません。 |
| (4) 買付けの期間                              | 平成28年3月7日から平成28年4月4日まで                                      |
| (5) 決済の開始日                              | 平成28年4月26日  |
| (6) 決済の開始日である平成28年4月26日をもって取得を完了しております。 |   |